



物事を正しくとらえよう

鈴木丑太郎

戦争をする国への地ならし

政府は防衛省の設置を決め、教育基本法を改正し、教育の国家統制を図ろうとしているが、何たることかと云いたい。多くを語るまでもなく、そのねらいは戦争する国への地ならしで危険千万である。私は戦争のあの時代に育てられて来たので、歴史の足跡を語らずにおれなくなった。

戦争の中で育ってきた

昭和二年七月に生まれ、昭和の子供として、改訂教科書(七年改訂)によって、教育されることになった。世に云う「サイタ サイスタ」、「ススメススメ ヘイタイスメ、ヒノマルノハタ パンザイ」と軍国日本を担って立つ青少年を育てる教育を受けて育った。二年生の時、二・二六事件が起

き、世は大変な時代になっていた。キがて昭和十二年七月七日には北京郊外での衝突から中国との全面戦争へと突入し、十三年には国家総動員法が制定され、戦時体制となり、十五年には大政翼賛会(たいせいよくさんかい)の設立、そして紀元二千六百年の式典で八紘(やっこう)一宇(いつう)はっこういちうの神国精神を風靡(ふうび)ふうびし、戦争の昂揚(おうやう)を図った。

私たちはこの様な中で成長して来た。そして遂に十六年十二月八日日米英開戦となり、二十年八月十五日まで塗炭の苦しみの戦いとなり、原爆の試験をへて戦争は終わった。戦後になって、何のための戦争であったのか検証されることになったが、あまりにも甚大な犠牲を強いた戦争であった。

東京大空襲も体験した

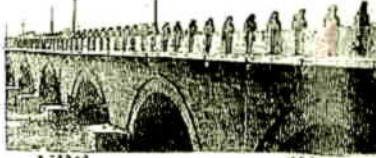
私も十八年十月二十一日、「学徒(がくせい)出陣」を神宮外苑に見送り、自らも「学徒出陣」として軍需工場に赴き、二十年三月十日の東京大空襲の中をかうじて生き延び、その後の空襲にも耐えて生き延びた。

「学徒出陣」で先輩達は十九年には繰上徴兵検査で、現地で動員され、本土決戦への動員に繰り入れられてその苦難を味わった。忘れることの出来ないのは、あまた多くの先輩達が「学徒出陣」となり、殆ど帰って来なかった。特攻で散っていった友もいた。

死んだ者は生き返らない以上、生き残ったものは何を為すべきか、いつも問われている。私は未来のために過去を語っている。戦争を知らない次の世代の方々よ、古きを尋ねて新しいきを知る(温故知新)。二度と戦争の無きよう、過去に学んで下さい。私も終戦をへて、平和の大切さを学び、今を生きています。

(鈴木さんは、「九条の会」会員。原町区にご在住。今年満七十九歳です)

〇ご存じとは思いますが、
ろこうきょうじけん
盧溝橋事件
(日中戦争の発端となった事件。1937年7月7日、北京の郊外の盧溝橋で、演習中の日本兵1名が行方不明となり、日本軍が中国軍を攻撃。これを契機に、日本政府と日本軍部は日中全面戦争に拡大していった)



盧溝橋 通称マルコポーロ橋。北京西方の永定河にかかる橋。

たいせいよくさんかい
大政翼賛会 (日中戦争の長期化に伴って、1940年10月、近衛文麿のえふみまるとその側近によって組織された官製の国民統制組織。各政党は解党してこれに参加された。総裁は首相、各都道府県支部長には知事が就任した。労働運動や反戦運動などもできない体制が巧妙に作られていった)



大政翼賛会の見立 (1940年10月)

はっこういちう
八紘一宇
(「宇」は屋根のこと。世界を一つの国家とする日。太平洋戦争期、日本の海外進出を正当化するために用いた標語)

東京大空襲
(1945・昭和20年3月10日未明に行われたアメリカ軍のB29約300機による東京への無差別攻撃のこと。消失家屋26万戸、死者約10万人。特に下町地域は焼け野原になる)



焼け野原となった東京

会員の俳句

鈴木丑太郎さん作の俳句

昭和二十年八月十五日終戦日当日に

- 一、炎天下玉音聞けと座らされ
- 一、民われら何やあるかと集い寄る
- 一、炎天下ラジオが鳴りて戦止む
- 一、戦止む途方にくれて坐る人
- 一、死んだ夫よみがえり泣きくずれ
- 終戦日の夜に
- 一、終戦日灯ともせる夜がくる
- 一、終戦日爆音消えて灯がともる
- 一、終戦日ゲートルほどきよく眠る
- 一、生きていたその重さ知る終戦日
- 一、ポツダムも知らぬがままに戦止む
- 一、ポツダムを後から知りて目が覚める
- その後
- 一、終戦日平和の重さ訓えいる
- 一、終戦日九条守れと叫びいる
- また夏が来て
- 一、夏が来る南からの波押しよせる
- 一、寄せる波わたつみの声に聞こえ来る
- 一、亡き兵ら九条守れと叫びいる



新憲法公布の日
1946年11月3日、宮城前で10万人参加の祝賀国民大会が開かれた。
皇居前広場で終戦を迎える人々 8月15日正午から終戦詔勅の玉音放送が流れた。玉砂利にひれ伏して号泣する人々も多かった。



○上の俳句は、表のページと同じ鈴木さんの作品です。61年前の戦争や戦後を体験された方でなければ作れない内容です。終戦の日の開放感を元気に話され、また、1947（昭和22）年5月3日の新憲法発布の日のことも昨日のこのように覚えておられます。
○前回1回目の『私の戦争体験』1・早坂吉彦さんの満州国での体験も、如何だったでしょうか。読んでいただけましたか。
○戦争体験を、次の世代に語り継ぐ必要があります。「九条フログはらまち」にこのように順次掲載したいと思いますので、会員の方々の原稿を事務局までお寄せください。聞き取りでも結構ですが、原稿にいたします。

事務局より

この郵送封筒には次の6種類のものが入っています。

- ①「九条フログはらまち」No.13(11月12日号)
- ②「九条フログはらまち」No.14(12月1日号)
- ③「九条フログはらまち」No.15(12月8日号)
- ④「非武装・不戦の憲法を変えさせない意見広告2007年5月3日」の案内プリントです。

来年の憲法記念日の全国紙に、憲法9条を守ろうと意見広告を出すもので、「はらまち九条の会」の名でも参加しますが、個人名でも1口2000円で申し込むことができます。
⑤「栗しおり」は、11月3日の「あきいち06九条の会ブース」で市民の皆さんに配ったものです。稚拙なものですが、反戦や平和に関する言葉などをプリントし、憲法九条にちなんで9種類を作りました。1枚だけ同封します。残部は、来年2月3日の総会・講演会会場どうぞ！
⑥「ハガキ」は、「九条フログはらまち」No.14にあるように、「9条や平和への思い」を書いていただくものです。ご家族で1枚とさせていただきます。悪しからず。

○「九条フログはらまち」は、「文字が小さく、ゴチャゴチャして内容が盛りだくさんで読みにくい」「編集が下手くそ」「まとめてドサッと届いて、とても読む気がしない」「行事の連絡も遅くてさっぱり分からない」「連絡の仕方をもっと上手にやればいいのに」など、きわめて不評です。
来年は会員の皆様に、快く読んでいただけるように頑張ります。(山崎)



♥「はらまち九条の会」へのご意見・入会について、鈴木安蔵の映画『日本の青空』のチケット(1枚1,000円)購入などのお問い合わせは、事務局員までどうぞ！

○「憲法九条がいかに大切か、戦争は絶対にいけない」ということを、一人でも多くの市民に分かっていただくために、来年も一緒に活動していきましょう。事務局員は微力で、大きな打ち上げ花火よりも線香花火の美しさ、幸せは小さいことが極上と考えます。小市民的ですが、
○今年もあと20日。会員の皆様には、1年間大変お世話になりました。どうぞ良いお年をお迎えください。

<事務局員連絡先> 山崎 TEL22-8631 ・石田 TEL22-4037
・早坂 TEL22-0326 ・井上 TEL22-7511 ・番場 TEL22-0715